

### 第3章 障害者の災害準備の取組事例

#### 第1節 特別支援学校における防災教育の一例

##### 東日本大震災の経験を生かした女川高等学園の取組

宮城県立支援学校女川高等学園 森 英行  
元宮城県立支援学校女川高等学園 教頭 佐藤功一

この原稿は、2018年12月20日（防災勉強会、国立障害者リハビリテーションセンター研究所）の講演記録から編集しました。写真掲載されていらっしゃる方からは許諾をいただいています。

#### 1 はじめに

宮城県女川町は、2011年東日本大震災（M9）では、甚大な被害を受けました。最大津波高14.8m、最大遡上高34.7mで、人口1万人のうち人的被害824人（死亡率8.24%）でした。その5年後の2016年4月に、宮城県立支援学校女川高等学園は女川町の高台に開校しました（図1）。宮城県に初めてできた3年間全寮制の特別支援学校で、軽度の知的障害のある生徒が入学します。入学希望者は選考検査で24名が選抜されます。合格倍率は例年約1.5倍で、宮城県全域から入学者がいます。国語と数学の学力試験と作業や運動の検査を受けて入学していますので、一斉の指示や指導を受けて行動できる力があります。ただし、生徒の理解・判断・行動する力には、それぞれ違いがあります。

生徒は卒業後に一般就職を目指し、専門的な科目を学びます。たとえば、介護、食品製造、ホテルやレストランでの清掃や接客です（図2、3、4）。1年生から3年生までの全校生が6月と10月には、会社で実習を行います。実習を重ね、その会社に生徒自身を理解してもらい、卒業後の就職につなげます。

3年間の寮生活では、働くために必要な生活習慣を身に付けるとともに、親に頼らないで生活する力を身に付けることを目指します。卒業後、親元を離れ一人で生活を始める生徒もいます。また、他の生徒との共同生活を通して、他者との関係を作り上げていくことを実践的に学習します。本稿では、女川高等学園の総合防災訓練、特に、「避難所運営訓練（女川版）」（以下、「避難所運営訓練」）について紹介します。「避難所運営訓練」は避難所運営ゲーム（HUG: Hinanjo Unei Game、日本語読み）を改変しました。



図1 宮城県立支援学校女川高等学園、右上に女川港。



図2 介護の実習



図3 食品製造の実習



図4 サービスの実習

## 2 総合防災訓練の全体構成

女川高等学園の防災活動は、生徒の状況を踏まえ、生徒に役割と責任感を持たせることを目的として計画されています。寄宿舎の自治会の6班が自主防災組織として、月1回の定期的な活動の集大成として9月に体育館で1泊する総合防災訓練が行われます。総合防災訓練では、生徒が担当するプログラムの進行を担います。「誰かに教えなければならない」という緊張感は、生徒の責任感を育てます。

6班は総務班、広報班、環境整備班、安全点検班、救護班、給食給水班から構成されます。総務班は、組織全体の運営を担うとともに「避難所運営訓練」を担当します。広報班は各班活動の記録を担当し、授業でも活用しているiPadで撮影します。環境整備班は、清掃や啓発活動を担当します。安全点検班は定期安全点検を行い、救護班は救急用品を管理します。給食給水班は炊き出し訓練の他に備蓄品の管理と食堂清掃を担います。卒業後に防災活動を通じた地域参加することも意識しています。

総合防災訓練の想定は、「大地震発生後、大津波警報が発令され、帰宅困難になった。体育館を避難所として、避難してきた地域住民が一晩を過ごすことになった。」としました。

表1に総合防災訓練のスケジュールを示し、以下に概要を説明します。

- ① 「避難訓練」…授業中に大規模な地震が発生した際に、机の下で身を守り、クラスごとに整列して避難場所に移動する訓練です。(図5、6)
- ② 「救護訓練」…4人傷病者(熱中症、高熱、腕負傷、足負傷)に対してグループで相談しながら手当を行う訓練です。(図7)
- ③ 「避難所運営訓練」…混乱する避難所の中で、互いに助け合う必要性を学びます。
- ④ 「避難所の環境整備」…避難所にパーティションを設置します。(図8、9)
- ⑤ 「炊き出し訓練」…地域の婦人会の協力を得て、食事の提供と提供される側のマナーを学びます。また、地域住民から東日本大震災での経験談を聞きます。(図10、11)
- ⑥ 「巡回訓練」…暗くなった校舎を見回り安全確認を行いながら、当日の訓練内容を復習をします。(図12、13)
- ⑦ 「振り返り」…体育館での宿泊後、翌朝、教室で行います。(図14)

「避難訓練」と「振り返り」では生徒は教師の指示に従います。その他の訓練では、訓練を担当する班員が「支援者」役あるいは進行役となり、他の生徒と教師は「避難者」役です。



図5 避難訓練:地震直後には机の下に隠れて落下物を防ぐ



図6 避難訓練:安全確認して、体育館に移動する



図7 救護訓練



図8 避難所の環境整備:段ボールで間仕切りを作る



図9 避難所の環境整備:段ボールの間仕切りを設置する



図 10 炊き出し訓練：配布



図 11 炊き出し訓練：豚汁調理



図 12 巡回訓練：夜間の安全確認



図 13 巡回訓練：夜間の救急



図 14 振り返り(2日目、教室)

表 1 「総合防災訓練」の進行表  
＜1日目＞

時間	活動内容	備考
13:10～ 13:25	①SHR	各学級単位
13:30～ 13:50	②避難訓練 想定「大規模地震～津波警報発令」	全校単位

14:00～ 15:00	③開会式（総務班） 「(仮) 救護訓練」(救護班)	自治会単位 (縦割り活動)
15:00～ 15:20	④避難所運営訓練準備・休憩	
15:20～ 17:30	⑤「(仮) 避難所運営訓練」(総務・環境整備) ⑥「(仮) 炊き出し訓練」(給食給水班) ⑦「(仮) 被災者の体験談」(総務)	活動間に休憩時間 を確保する
17:30～	⑧夕食～入浴（男：実習棟 女：白亜館） 就寝準備	
20:00～	⑨避難所での宿泊について（総務班） ⑩「(仮) パーティション制作・設置」 ⑪「(仮) 巡回見回り訓練」(安全点検班)	
21:00 21:35～	⑫点呼～就寝 班長会	

## &lt;2日目&gt;

時間	活動内容	備考
6:30	⑬起床・身だしなみ 荷物片付け	
7:00	⑭朝礼（総務班） 荷物撤収、制服着用	
7:30	⑮朝食（給食給水班）	防災食
8:20	登校	
8:45	HR	
9:00	⑯片付け、清掃（環境整備班）	
9:25	⑰閉会（総務班）	

## 3 「避難所運営訓練」の構想

「避難所運営訓練」は第1回総合防災訓練（2018年9月）から実施されました。訓練を計画するにあたって参考にした HUG は静岡県が開発したグループで行う図上訓練で、災害時の避難所の臨場感を再現し準備に役立つことから多数の授賞があります。HUG では、グループのメンバーは避難所の運営者という設定です。模擬避難所（小学校）の配置図を使って、運営者は1時間でカードに書かれた196人の避難者（そのうち85人は要配慮者）を配置し、45イベントに対応します。例えば、「避難世帯の一人が車いす使用者」の時に、この家族を体育館に配置するのか、それとも、トイレに近い教室に配置するのかを考えます。また、「仮設トイレが、明日5基届きます。どこに設置するか決めてください。」というカードに対して、学校の敷地図を見て設置する場所を記入し、掲示板に「明日、仮設トイレが〇〇に5基設置されます」と掲示を出します。

HUGの大きな特徴は「答えがないこと」と「架空の状況を想像すること」です。この2つは、知的障害の特性上、本校生徒には大きな困難が予想されました。抽象的な設定で課題を考えることは困難だからです。また、複数名で行うゲームでは、意見を発信すること、異なる意見の調整をすることが必要となり、コミュニケーションを苦手と感じる生徒が傍観者となることが予想されました。

それでも訓練に HUG を取り入れた理由は、以下のような生徒がもつ課題への準備が必要と考えたからです。

①被災時に、自分の状況を伝えることができるか？

②災害時に、周囲の状況に気を配ることができるか？

在校生の多くは、準備なしには上の2つの課題を遂行することは困難ですが、準備さえすれば、体力・行動力・指示理解などの面においては十分に災害時に支援者にもなり得る力を持っています。2つの課題は、支援者としても要支援者としても求められる力です。被災直後の混乱の中で避難所運営をする大変さや、最善を見出す困難さを体感する HUG の主旨を実現するために、「避難所運営訓練」では、参加者がカードで示される人やイベントになりきって具体的に参加するロールプレイ形式を採用しました。

表2 HUG と「避難所運営訓練」の比較

	HUG	避難所運営訓練
様式	グループでの図上訓練	ロールプレイゲーム
参加人数	7名 x 5 グループ程度	受付1か所あたり 35名程度
設定	架空の小学校	実施会場
避難者の居住地	架空の町名	丁目の番号
避難者の姓	防災用語	女川町内の地域名
カードの大きさ	トランプ大	ハガキ大

#### 4 「避難所運営訓練」の進行

2回目の「避難所運営訓練」(2019年9月)には、軽度の知的障害がある生徒69名、教員57名、町内会役員10名(計136名)が参加しました。導入から、訓練、意見交換、復習まで合計1時間程度の訓練でした。

##### (1) 準備

事前に、進行方法の確認と必要な物品を準備しました。HUGのカードを参考に、実際にありそうな内容を避難者の数に合わせて選び、図15のようなカードを作りました。

居住地の名称は、HUGで使っている架空の町名ではなく番地のみ記載しました。HUGでは、避難者の名前は防災用語(例えば、津波さん)ですが、ここでは、女川町内の地域名としました。カードの大きさは、HUGではトランプのサイズですが、ここではハガキサイズでホルダーに入れて、首から下げて両手を使えるようにし(図15)、自分も他者も内容が確認しやすくなるようにしました。また、取り扱いしやすく、破れにくいことにも留意しました。写真用の光沢紙で印刷すると厚みがあって扱いやすくなります。カードホルダーの裏側には、振り返りシート(図16)を入れて、グループ内での意見交換の時間に記入を依頼して、話し合いの手掛かりにしました。振り返りシートは、カードと一緒に回収しました。表3に振り返りシートの集計結果を示しました。一般的には、「避難所に行きたくない」という障害者が多い中で、「行きたくない」と回答した生徒が11%しかいなかったこと、「避難所で大切だと思うこと」について生徒の上位は、協力、優しさ、安心だったことは訓練の成果と

考えます。

表3 「避難所運営訓練」振り返りシート集計（回収数108、回収率79.4%）

1 訓練の「役」はどうでしたか？						
	生徒		教職員		外部参加者	
	人	%	人	%	人	%
難しかった	41	61.2	13	68.4	6	27.3
うまく演じられた	26	38.8	6	31.6	16	72.7
合計	67	100.0	19	100.0	22	100.0
2 実際の被災時をイメージしてください。 「役」の人が目の前に現れたら？（複数回答あり）						
	生徒		教職員		外部参加者	
	人	%	人	%	人	%
無視する	9	13.4	1	5.3	0	0.0
話しかけてみる	37	55.2	12	63.2	8	36.4
助ける（助けてみたい）	23	34.3	15	78.9	5	22.7
3 災害の時、避難所に行けますか？（複数回答あり）						
	生徒		教職員		外部参加者	
	人	%	人	%	人	%
行きたくない	8	11.9	1	5.3	1	4.5
命を守るためなら行く	29	43.3	15	78.9	4	18.2
家族も連れていく	32	47.8	12	63.2	9	40.9
4 避難所で大切だと思うことを3つ選んでください						
	生徒		教職員		外部参加者	
	人	%	人	%	人	%
協力	39	58.2	15	78.9	6	27.3
優しさ	35	52.2	13	68.4	7	31.8
安全	27	40.3	13	68.4	3	13.6
食べ物	25	37.3	11	57.9	3	13.6
会話	23	34.3	7	36.8	7	31.8
安心	25	37.3	10	52.6	1	4.5
プライバシー	11	16.4	6	31.6	3	13.6
笑い	10	14.9	3	15.8	1	4.5
空間	11	16.4	2	10.5	0	0.0
がまん	9	13.4	3	15.8	0	0.0
お金	9	13.4	0	0.0	0	0.0
リーダーシップ	6	9.0	0	0.0	2	9.1



資料1に避難者カードとイベントを示します。カード内容を一部変更したり、イベント内容を増やしたりすることも可能です。実施する地域の災害リスクや参加者の特性にあわせて設定を変えることで、訓練がより現実的になり難易度が増します。



図15 カードとカードホルダー

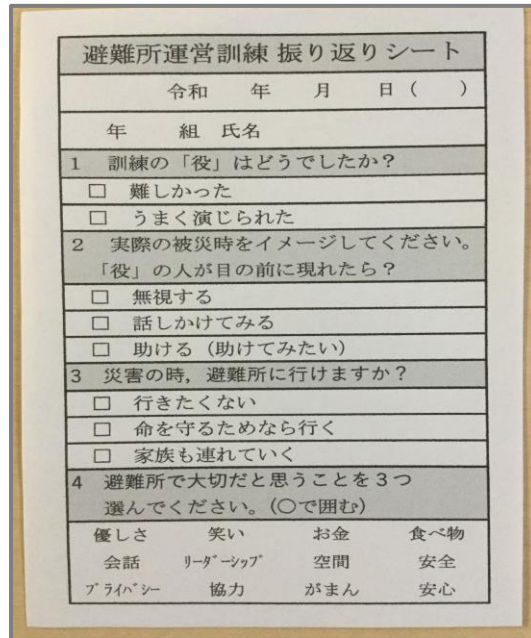


図16 振り返りシート

## (2) 導入

初めに、進行役がスライドを用いて訓練の主旨を説明しました。避難想定を確認し(図17)、災害状況を示す動画(図18)や被災地、避難所の写真を示しながら、避難所生活の経験がない人にも災害想定イメージを共有しました。

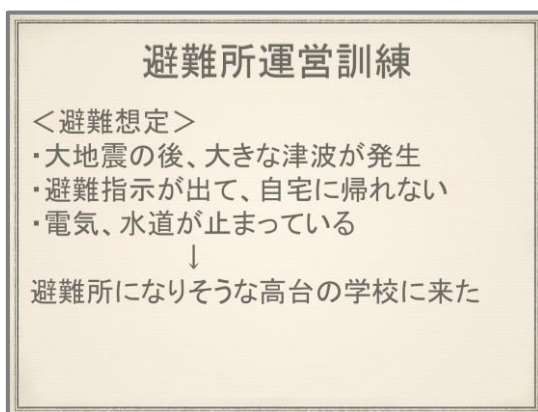


図17 避難想定の確認



図18 東日本大震災時の津波の映像資料

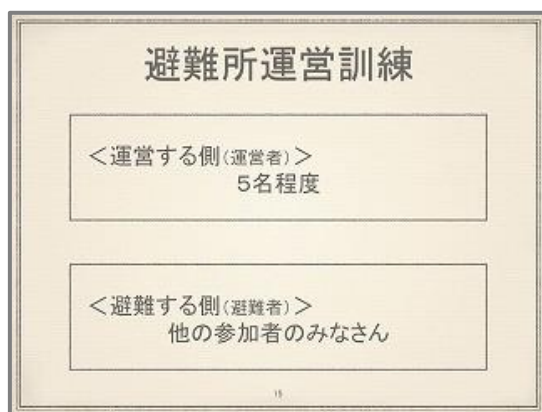


図 19 「避難所運営訓練」の役割

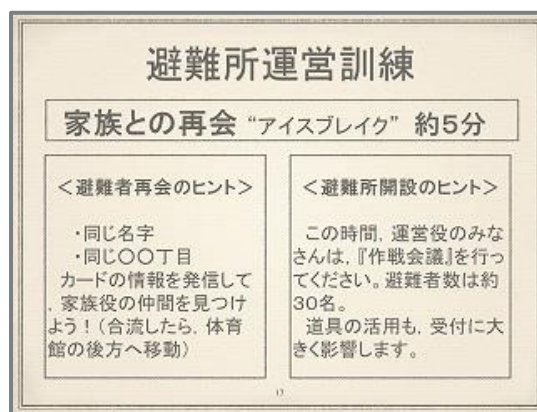


図 20 「避難所運営訓練」のアイスブレイク

次に、ゲームの方法を説明しました。運営者役に生徒 5 名と教師 2 名、イベント役を 10 名程度決め、そのほかの生徒と教師は受け取ったカードに記載された避難者役を演じます（図 19）。災害時に起こるイベントは 10 個用意しました。イベント役が 10 名いない場合は、一人で複数のイベントを受付に申し出ます。避難者役のカードとイベントの内容を資料 1 に示します。

### （3）避難者役の場合

避難者役の生徒と教師には、ランダムにカードを配付します。

- ①自分のカードに書かれた「役」を確認します。
- ②スタートの合図とともに、自分の「家族」を探します（図 20）。

- ・災害により、散り散りになった家族を探す設定です。
- ・カードの情報（姓と住所）を手掛かりに家族は合流し、全員が集まったら座ります。

女川町を 2011 年に襲った大地震は 2 時 46 分に発生したため、学校に行っていた子どもと職場にいた家族が出会うまでに時間が掛かり、災害発生後に家族を探すことの不安と困難を多くの人が経験しました。家族を探す課題は HUG にはありませんでしたが、「避難所運営訓練」には取り入れました。

- ③「アイスブレイク」（5 分間）
  - ・集合した「家族」内でカードに書かれた役割を確認します。
  - ・どのように「役」を演じるか考えます。
  - ・必要な道具（車いす、白杖など）を選び、活用します。
- ④「避難所開設を望む（イベントカード）」という声が聞こえたら、家族ごとに受付に向かいます。
- ⑤受付では、家族の状況や要求を訴えます。
  - ・わかりやすく伝えたり、わかりにくく伝えたり、リアルに演じます。
- ⑥受付後は、「家族」ができることを考え、他の避難者にも気を配ります。
- ⑦受付閉鎖を示すイベントカードが読み上げられたら、次の段階に進みます。

#### (4) 運営者役の場合

運営者役生徒は、ビブスを着用し区別しやすくします。運営者には、避難者に関するカードの情報は知らされません。受付で、避難者から聞いた内容に対応します。実際の災害状況に近づけるためです。

##### ① 「アイスブレイク」(5分間)

スタートの合図とともに、運営者同士で避難者の誘導方法を相談します(図 20、21)。限られた避難スペースの中で、スムーズに案内するための準備です。

- ・集合したメンバー内での役割分担と受付に必要な道具を整理・確認します。
- ・体育館内に区画を決めます。避難者を住所、家族の状況、性別、障害の状況により、違う区画に配置するためです。

##### ② 「避難所開設を望む」イベントカードが読み上げられる前に、受付を設営します。

- ・人数が多い時は、受付デスクを複数作ります。本校では運営役を14名とし、避難者役を110名程度に設定したため、受付デスクは2台配置されました(図 21、22)。

##### ③ 受付では、運営役は避難者の状況を聞き取り、適切な避難スペースを指示または案内します(図 23、24)。

- ・けがや障害、年齢、性別に応じた配慮をします。

##### ④ 受付閉鎖を示すイベントカードが読み上げられたら、次の段階に進みます。

#### (5) グループ内の意見交換と発表

受付閉鎖後は、各自で振り返りシートを記入します。記入を参考に、グループごと(家族、運営役)に参加者は訓練を振り返りながら、感想や意見(よかったこと、困ったこと、質問など)を交換します。全体の進行役は、話し合いの進み具合を見て、個人やグループごとに発表を促し、訓練目的が達成されたか否かを整理します。



図 21 受付開始前(運営役はビブス着用)



図 22 受付開始直後(手を挙げて受付開始の合図)



図 23 受付で自分の状況を伝える避難者（左）



図 24 受付に並ぶ避難者の列

## （6）復習

最後に、この訓練で学ぶポイントを復習しました。図 25 と 26 に、災害発生当初の雑然としている避難所が、時間がたつと整理されたことを写真で示しました。できるだけ早く、避難所を暮らしやすくするために必要なことを2つ伝えました。第一は、避難所で多様なニーズを持つ避難者が生活するために、自分のニーズを受付で説明しなければいけないこと。例えば、車いすの人は段差がない場所で90センチ幅の通路が必要なことを伝える必要があること。第二は、相手の状況を理解して譲り合う気持ちが必要なこと。例えば、運営者は90センチ幅の通路を作るように避難所内を整理しようと考え、他の避難者は通路の作成に協力することです。そして、「自分を知ってもらうこと」と「相手の状況を知ること」を調整することが「コミュニケーション」で「難しい状況を乗り越える力」になることを伝えました（図 27）。



図 25 東日本大震災後の避難所（初期）



図 26 東日本大震災後の避難所の変化（1か月後）

1年目の「避難所運営訓練」の進行は、「避難所運営訓練」を企画・準備した筆頭著者が行いました（図 28）。初めての取組だったためです。2年目の「避難所運営訓練」は生徒が進行役を務めました。前年度の経験と事前指導により、生徒自身が「避難所運営訓練」の意図を理解し、進行できる力が身に付いたと判断されたからです。

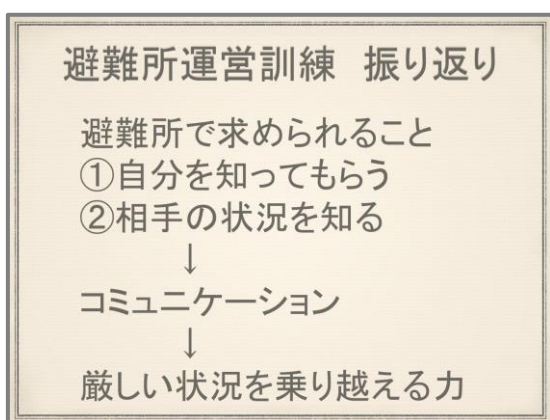


図 27 避難所で求められること



図 28 進行役の第一著者、森英行

## 5 「避難所運営訓練」の結果

### (1) コミュニケーションの広がり

1年目の訓練では、カードの設定で集められた同一世帯内ではコミュニケーションが良く取れていました。しかし、避難所の受付では生徒の積極性が減り、教師に受付での交渉を頼ってしまう生徒が増えました。また、振り分けられた避難スペースでは、世帯間の会話はほとんどありませんでした。これに対して、2年目の訓練では、受付での交渉でも教師を頼ることが減り、避難スペースで世帯間の会話が見られるようになりました。生徒が経験を積み主体的に行動したためと考えられました。

実際の避難所運営においては、避難者同士が譲り合うことと助け合うことが求められます。災害で苦しい状況に置かれた人同士が、他の家族の状況に気を配り、課題を共有して解決することが求められます。これらのことを、教師の世代は東日本大震災で体験しました。そのような疑似体験を蓄積するために、避難スペースに落ち着いた後に発生する課題の設定を追加していくことは次の課題です。

### (2) 発信力

カードに書かれている情報、例えば「私は赤ちゃんの声が苦手」というような避難者の特性を、実際には、各自で準備しなければいけないことに気付き、「発信」の大切さを学んだと一部の生徒は振り返りシートに回答しました。ここで紹介した「避難所運営訓練」では、カードに書かれた架空の情報で訓練が進行していきます。いつ来るか分からない災害に備え、自分自身の「できること」、「できないこと」を整理することは、生徒自身が準備しなければいけないことです。今後も訓練を通して「自分自身のこと」を発信する力を身に付けることが大切です。発信することが「当たり前」になる感覚を身に付けさせたいと考えます。今後も、プログラムの改良を進めます。

## 6 まとめ

本校の総合防災訓練では、人間同士が互いに話し合い、感情を理解し合った助け合いの

輪を形成していく過程を体感的に学びます。学校教育の中でこのような体験できることは、卒業後の暮らしの中でも生きる経験になると考え、開校以来訓練を重ねてきました。

特に、「避難所運営訓練」では、経験値が増えた上級生が下級生をリードし、円滑な運営を目指す姿に、生徒の成長と頼もしさを感じています。「避難所運営訓練」を進行する生徒が訓練当日を前に、ホワイトボードを活用しながら避難者の動きを予想し、運営者の動きを相談する場面は、生徒自身が問題解決に向けて主体的に取り組む姿であり、上限のない成長の可能性を感じる一場面でした。

また、訓練当日においては、運営者役が避難者役を優しい言葉で誘導し、誘導後も避難者同士の助け合いを促す働き掛けを行う姿がありました。さらにその働き掛けから、避難者役の生徒が周囲の人の手助けを行う状況が見られました。

「私が困っていることを伝えたら、運営役の人が親切にしてくれました」

「私より大変そうな人がいたので、手伝いをしました」

「実際、災害が起きた時にも助け合いができるといい」

これらは訓練終了後の生徒の感想の一部です。訓練とは言え、助け合いの輪が広がっていく過程に生徒自身が関わっていることを自覚できていること。経験できたことを将来に生かしたいという考えが生まれていることは、本校の取組が有意義で生徒の成長につながっているものだと考えます。

(資料1)

通しNo.	世帯番号	居住地区	名字	フリガナ	年齢	家族構成	家族の状況
1	1	1丁目	旭丘	アサヒガ 勲	35	世帯主・妻・子①・子②	妻と連絡が取れない。子②は弱視（視力が弱い）。子は、母親の不在に不安。
2	1	1丁目	旭丘	アサヒガ 勲	12	世帯主・妻・子①・子②	妻と連絡が取れない。子②は弱視（視力が弱い）。子は、母親の不在に不安。
3	1	1丁目	旭丘	アサヒガ 勲	10	世帯主・妻・子①・子②	妻と連絡が取れない。子②は弱視（視力が弱い）。子は、母親の不在に不安。
4	2	1丁目	飯子	イイコ	40	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所の開設を訴えた。子は、双子で落ち着きがない。子①はスイッチをいじりたがる。子②は話したがる。 (イベント1 「体育館を避難所として、開放してくれないか?」)
5	2	1丁目	飯子	イイコ	35	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所の開設を訴えた。子は、双子で落ち着きがない。子①はスイッチをいじりたがる。子②は話したがる。
5	2	1丁目	飯子	イイコ	10	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所の開設を訴えた。子は、双子で落ち着きがない。子①はスイッチをいじりたがる。子②は話したがる。
5	2	1丁目	飯子	イイコ	10	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所の開設を訴えた。子は、双子で落ち着きがない。子①はスイッチをいじりたがる。子②は話したがる。
8	3	1丁目	石浜	イシハマ	18	世帯主・妻・子①・子②・父	世帯主・妻と連絡が取れない。祖父がケガをして、歩くことが困難。
9	3	1丁目	石浜	イシハマ	15	世帯主・妻・子①・子②・父	世帯主・妻と連絡が取れない。祖父がケガをして、歩くことが困難。
10	3	1丁目	石浜	イシハマ	65	世帯主・妻・子①・子②・父	世帯主・妻と連絡が取れない。祖父がケガをして、歩くことが困難。
11	4	1丁目	出島	イズシマ	50	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主は死亡。妻は取り乱している。子は状況説明できる。母は認知症。
12	4	1丁目	出島	イズシマ	20	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主は死亡。妻は取り乱している。子は状況説明できる。母は認知症。
13	4	1丁目	出島	イズシマ	18	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主は死亡。妻は取り乱している。子は状況説明できる。母は認知症。
14	4	1丁目	出島	イズシマ	72	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主は死亡。妻は取り乱している。子は状況説明できる。母は認知症。
15	5	1丁目	浦宿	ウラジュク	30	世帯主・子①・子②	母子家庭。知り合いが少ない。訳(ワケ)ありで最近引っ越してきた。母親から離れず、人と目を合わせられない。
16	5	1丁目	浦宿	ウラジュク	12	世帯主・子①・子②	母子家庭。知り合いが少ない。訳(ワケ)ありで最近引っ越してきた。母親から離れず、人と目を合わせられない。
17	5	1丁目	浦宿	ウラジュク	10	世帯主・子①・子②	母子家庭。知り合いが少ない。訳(ワケ)ありで最近引っ越してきた。母親から離れず、人と目を合わせられない。
18	6	1丁目	江島	エジマ	39	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。率先して周囲に声を掛けている。子は災害でおびえ、母親から離れられない。
19	6	1丁目	江島	エジマ	37	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。率先して周囲に声を掛けている。子は災害でおびえ、母親から離れられない。
20	6	1丁目	江島	エジマ	11	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。率先して周囲に声を掛けている。子は災害でおびえ、母親から離れられない。
21	6	1丁目	江島	エジマ	9	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。率先して周囲に声を掛けている。子は災害でおびえ、母親から離れられない。
22	7	1丁目	尾浦	オウラ	31	世帯主・妻・子①・子②	世帯主と連絡が取れない。妻は看護師、子どもは幼いが落ち着いている。
23	7	1丁目	尾浦	オウラ	8	世帯主・妻・子①・子②	世帯主と連絡が取れない。妻は看護師、子どもは幼いが落ち着いている。
24	7	1丁目	尾浦	オウラ	6	世帯主・妻・子①・子②	世帯主と連絡が取れない。妻は看護師、子どもは幼いが落ち着いている。
25	8	1丁目	大石原	オオイシハラ	38	世帯主・妻・子①・子②	妻と下の子と連絡が取れない。子①は、頭部にケガ。子②の夜立きが心配。
26	8	1丁目	大石原	オオイシハラ	10	世帯主・妻・子①・子②	妻と下の子と連絡が取れない。子①は、頭部にケガ。子②の夜立きが心配。
27	8	1丁目	大石原	オオイシハラ	4	世帯主・妻・子①・子②	妻と下の子と連絡が取れない。子①は、頭部にケガ。子②の夜立きが心配。
28	9	1丁目	女川	メカガ 7	70	世帯主	一人暮らし。災害で杖を紛失。歩くのに時間がかかる。
29	10	1丁目	御前	オノメエ	27	世帯主・妻・子①	世帯主と連絡が取れない。妻は妊娠後期。安定しているが、避難所の生活に不安。 耳が聞こえない…?呼びかけに対して、反応が悪い。補聴器などしていない。
30	10	1丁目	御前	オノメエ	7	世帯主・妻・子①	世帯主と連絡が取れない。妻は妊娠後期。安定しているが、避難所の生活に不安。 耳が聞こえない…?呼びかけに対して、反応が悪い。補聴器などしていない。
31	11	2丁目	桐ヶ崎	キリガ 井	50	世帯主・妻・子①・子②	外国人。簡単な日本語は分かる。妻は、子ども2人と連絡が取れないことに不安がっている。
32	11	2丁目	桐ヶ崎	キリガ 井	47	世帯主・妻・子①・子②	外国人。簡単な日本語は分かる。妻は、子ども2人と連絡が取れないことに不安がっている。
33	12	2丁目	黄金	コガネ	46	世帯主・妻・子①・子②	子②が引きこもり、コミュニケーションに障害がある。個室を要求。世帯主は頑固。
34	12	2丁目	黄金	コガネ	44	世帯主・妻・子①・子②	子②が引きこもり、コミュニケーションに障害がある。個室を要求。世帯主は頑固。
35	12	2丁目	黄金	コガネ	21	世帯主・妻・子①・子②	子②が引きこもり、コミュニケーションに障害がある。個室を要求。世帯主は頑固。
36	12	2丁目	黄金	コガネ	18	世帯主・妻・子①・子②	子②が引きこもり、コミュニケーションに障害がある。個室を要求。世帯主は頑固。
37	13	2丁目	寿	コトアキ	78	世帯主	災害により、極度の緊張。自分の名前なども言うことができず。
38	14	2丁目	小乗	コノリ	40	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主が町内会役員。世帯N0.13と共に連れてきた。妻は、妊娠初期、体調が落ち着かない。母は、長年町内のお世話役を務めてきた。
39	14	2丁目	小乗	コノリ	35	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主が町内会役員。世帯N0.13と共に連れてきた。妻は、妊娠初期、体調が落ち着かない。母は、長年町内のお世話役を務めてきた。
40	14	2丁目	小乗	コノリ	7	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主が町内会役員。世帯N0.13と共に連れてきた。妻は、妊娠初期、体調が落ち着かない。母は、長年町内のお世話役を務めてきた。
41	14	2丁目	小乗	コノリ	4	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主が町内会役員。世帯N0.13と共に連れてきた。妻は、妊娠初期、体調が落ち着かない。母は、長年町内のお世話役を務めてきた。

42	14	2丁目	小乗	ユリ	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主が町内会役員。世帯N0.13を共に連れてきた。妻は、妊娠初期、体調が落ち着かない。母は、長年町内のお世話役を務めてきた。
43	15	2丁目	桜丘	サカサカ 助	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主と連絡が取れない。子③は足が不自由で車いす。祖父母は育児に非協力的。
44	15	2丁目	桜丘	サカサカ 助	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主と連絡が取れない。子③は足が不自由で車いす。祖父母は育児に非協力的。
45	15	2丁目	桜丘	サカサカ 助	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主と連絡が取れない。子③は足が不自由で車いす。祖父母は育児に非協力的。
46	15	2丁目	桜丘	サカサカ 助	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主と連絡が取れない。子③は足が不自由で車いす。祖父母は育児に非協力的。
47	15	2丁目	桜丘	サカサカ 助	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主と連絡が取れない。子③は足が不自由で車いす。祖父母は育児に非協力的。
48	15	2丁目	桜丘	サカサカ 助	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主と連絡が取れない。子③は足が不自由で車いす。祖父母は育児に非協力的。
49	16	2丁目	指浜	サシハマ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主が死亡。子は双子だが、双方とも人とコミュニケーションを取ることが苦手。
50	16	2丁目	指浜	サシハマ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主が死亡。子は双子だが、双方とも人とコミュニケーションを取ることが苦手。
51	16	2丁目	指浜	サシハマ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主が死亡。子は双子だが、双方とも人とコミュニケーションを取ることが苦手。
52	17	2丁目	清水	シミズ	世帯主・子①	母子世帯。親子仲が悪く、一緒に居たがらない。
53	17	2丁目	清水	シミズ	世帯主・子①	母子世帯。親子仲が悪く、一緒に居たがらない。
54	18	2丁目	浦宿	ウラジュク	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主の妻・父が死亡。子②③は、泣きじゃくっている。母は気丈。
55	18	2丁目	浦宿	ウラジュク	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主の妻・父が死亡。子②③は、泣きじゃくっている。母は気丈。
56	18	2丁目	浦宿	ウラジュク	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主の妻・父が死亡。子②③は、泣きじゃくっている。母は気丈。
57	18	2丁目	浦宿	ウラジュク	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主の妻・父が死亡。子②③は、泣きじゃくっている。母は気丈。
58	18	2丁目	浦宿	ウラジュク	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主の妻・父が死亡。子②③は、泣きじゃくっている。母は気丈。
59	19	2丁目	黒森	クロモリ	世帯主・子①・子②・子③	母子世帯。町内に子①の同級生(シミズ)がいる。子②③は双子、耳が聞こえにくい。
60	19	2丁目	黒森	クロモリ	世帯主・子①・子②・子③	母子世帯。町内に子①の同級生(シミズ)がいる。子②③は双子、耳が聞こえにくい。
61	19	2丁目	黒森	クロモリ	世帯主・子①・子②・子③	母子世帯。町内に子①の同級生(シミズ)がいる。子②③は双子、耳が聞こえにくい。
62	19	2丁目	黒森	クロモリ	世帯主・子①・子②・子③	母子世帯。町内に子①の同級生(シミズ)がいる。子②③は双子、耳が聞こえにくい。
63	20	2丁目	高白	タカシロ	世帯主・妻・子①・子②・子③・母	両親と連絡が取れない。子が、高齢の母を支えている。両親が居ないことに不安感。
64	20	2丁目	高白	タカシロ	世帯主・妻・子①・子②・子③・母	両親と連絡が取れない。子が、高齢の母を支えている。両親が居ないことに不安感。
65	20	2丁目	高白	タカシロ	世帯主・妻・子①・子②・子③・母	両親と連絡が取れない。子が、高齢の母を支えている。両親が居ないことに不安感。
66	20	2丁目	高白	タカシロ	世帯主・妻・子①・子②・子③・母	両親と連絡が取れない。子が、高齢の母を支えている。両親が居ないことに不安感。
67	21	2丁目	竹浦	タケウラ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所運営に協力的。子②は落ち着かず、集団に入れず固まる。
68	21	2丁目	竹浦	タケウラ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所運営に協力的。子②は落ち着かず、集団に入れず固まる。
69	21	2丁目	竹浦	タケウラ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所運営に協力的。子②は落ち着かず、集団に入れず固まる。
70	21	2丁目	竹浦	タケウラ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。避難所運営に協力的。子②は落ち着かず、集団に入れず固まる。
71	22	3丁目	塚浜	ツカハマ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。妻は、昨日から39度台の発熱。子②は、落ち着きなく誰にでも話しかける。子①は、子②の面倒見が良い。
72	22	3丁目	塚浜	ツカハマ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。妻は、昨日から39度台の発熱。子②は、落ち着きなく誰にでも話しかける。子①は、子②の面倒見が良い。
73	22	3丁目	塚浜	ツカハマ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。妻は、昨日から39度台の発熱。子②は、落ち着きなく誰にでも話しかける。子①は、子②の面倒見が良い。
74	22	3丁目	塚浜	ツカハマ	世帯主・妻・子①・子②	世帯主は町内会役員。妻は、昨日から39度台の発熱。子②は、落ち着きなく誰にでも話しかける。子①は、子②の面倒見が良い。
75	23	3丁目	野々浜	ノノハマ	世帯主・妻・子①・子②・子③	世帯主・子①と連絡が取れずパニック状態。子③は、母親から離れられない。
76	23	3丁目	野々浜	ノノハマ	世帯主・妻・子①・子②・子③	世帯主・子①と連絡が取れずパニック状態。子③は、母親から離れられない。
77	23	3丁目	野々浜	ノノハマ	世帯主・妻・子①・子②・子③	世帯主・子①と連絡が取れずパニック状態。子③は、母親から離れられない。
78	24	3丁目	針浜	ハリハマ	世帯主・子①・子②	父子家庭。日頃から地域との関わりがうすい。子②は、状況を説明できる。子①は、避難所に不安を感じ、中に入ろうとしない。
79	24	3丁目	針浜	ハリハマ	世帯主・子①・子②	父子家庭。日頃から地域との関わりがうすい。子②は、状況を説明できる。子①は、避難所に不安を感じ、中に入ろうとしない。
80	24	3丁目	針浜	ハリハマ	世帯主・子①・子②	父子家庭。日頃から地域との関わりがうすい。子②は、状況を説明できる。子①は、避難所に不安を感じ、中に入ろうとしない。
81	25	3丁目	宮ヶ崎	ミヤガサキ	世帯主・妻・子①・子②・子③	世帯主と連絡が取れない。妻は、看護師。子①は、介護職員初任者研修の有資格者。子②③は、声をかけても目を合わせず、返答がない。
82	25	3丁目	宮ヶ崎	ミヤガサキ	世帯主・妻・子①・子②・子③	世帯主と連絡が取れない。妻は、看護師。子①は、介護職員初任者研修の有資格者。子②③は、声をかけても目を合わせず、返答がない。
83	25	3丁目	宮ヶ崎	ミヤガサキ	世帯主・妻・子①・子②・子③	世帯主と連絡が取れない。妻は、看護師。子①は、介護職員初任者研修の有資格者。子②③は、声をかけても目を合わせず、返答がない。
84	25	3丁目	宮ヶ崎	ミヤガサキ	世帯主・妻・子①・子②・子③	世帯主と連絡が取れない。妻は、看護師。子①は、介護職員初任者研修の有資格者。子②③は、声をかけても目を合わせず、返答がない。
85	26	3丁目	横浦	ヨコウラ	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主・妻と連絡が取れない。子①は、避難途中に足をくじいた。子②は福祉の専門学校に通っている。子③は、独り言が多い。父は、認知症。母は、面倒見が良い。



86	26	3丁目	横浦	ヨコウラ	19	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主・妻と連絡が取れない。子①は、避難途中に足をくじいた。子②は福祉の専門学校に通っている。子③は、独り言が多い。父は、認知症。母は、面倒見が良い。
87	26	3丁目	横浦	ヨコウラ	15	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主・妻と連絡が取れない。子①は、避難途中に足をくじいた。子②は福祉の専門学校に通っている。子③は、独り言が多い。父は、認知症。母は、面倒見が良い。
88	26	3丁目	横浦	ヨコウラ	80	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主・妻と連絡が取れない。子①は、避難途中に足をくじいた。子②は福祉の専門学校に通っている。子③は、独り言が多い。父は、認知症。母は、面倒見が良い。
89	26	3丁目	横浦	ヨコウラ	70	世帯主・妻・子①・子②・子③・父・母	世帯主・妻と連絡が取れない。子①は、避難途中に足をくじいた。子②は福祉の専門学校に通っている。子③は、独り言が多い。父は、認知症。母は、面倒見が良い。
90	27	3丁目	鷺神	ウシガミ	45	世帯主	中国人。簡単な日本語なら通じる。
91	28	3丁目	牡鹿	オカ	37	世帯主・子①・子②	最近引っ越してきたばかりで地域との関わりがない。子②が落ち着きなく、子①がサポート。
92	28	3丁目	牡鹿	オカ	15	世帯主・子①・子②	最近引っ越してきたばかりで地域との関わりがない。子②が落ち着きなく、子①がサポート。
93	28	3丁目	牡鹿	オカ	12	世帯主・子①・子②	最近引っ越してきたばかりで地域との関わりがない。子②が落ち着きなく、子①がサポート。
94	29	3丁目	黒森	クロモリ	51	世帯主・妻・子①・子②・子③	妻と連絡が取れない。子②は、視力が弱い(白杖使用)。子①③が子②をサポート。
95	29	3丁目	黒森	クロモリ	22	世帯主・妻・子①・子②・子③	妻と連絡が取れない。子②は、視力が弱い(白杖使用)。子①③が子②をサポート。
96	29	3丁目	黒森	クロモリ	16	世帯主・妻・子①・子②・子③	妻と連絡が取れない。子②は、視力が弱い(白杖使用)。子①③が子②をサポート。
97	29	3丁目	黒森	クロモリ	13	世帯主・妻・子①・子②・子③	妻と連絡が取れない。子②は、視力が弱い(白杖使用)。子①③が子②をサポート。
98	30	3丁目	堀切	ホリキリ	50	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主と連絡が取れない。母の足が悪いため避難所生活に不安。トイレに近い場所を要求。子①②は、避難所運営に協力的。
99	30	3丁目	堀切	ホリキリ	20	世帯主・妻・子①・子②母	世帯主と連絡が取れない。母の足が悪いため避難所生活に不安。トイレに近い場所を要求。子①②は、避難所運営に協力的。
100	30	3丁目	堀切	ホリキリ	18	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主と連絡が取れない。母の足が悪いため避難所生活に不安。トイレに近い場所を要求。子①②は、避難所運営に協力的。
101	30	3丁目	堀切	ホリキリ	77	世帯主・妻・子①・子②・母	世帯主と連絡が取れない。母の足が悪いため避難所生活に不安。トイレに近い場所を要求。子①②は、避難所運営に協力的。
102	31	3丁目	高崎	タカサキ	40	世帯主・妻・子①・子②	住宅が全壊。妻は、看護師。子①は、朝から下痢・嘔吐が続いている。子の隔離を要求している。
103	31	3丁目	高崎	タカサキ	43	世帯主・妻・子①・子②	住宅が全壊。妻は、看護師。子①は、朝から下痢・嘔吐が続いている。子の隔離を要求している。
104	31	3丁目	高崎	タカサキ	17	世帯主・妻・子①・子②	住宅が全壊。妻は、看護師。子①は、朝から下痢・嘔吐が続いている。子の隔離を要求している。
105	31	3丁目	高崎	タカサキ	15	世帯主・妻・子①・子②	住宅が全壊。妻は、看護師。子①は、朝から下痢・嘔吐が続いている。子の隔離を要求している。
106	32	3丁目	唐松	カラマツ	16	世帯主・妻・子①・子②・母	両親と連絡が取れない。子①は足が悪く車いすを使用。子②は被災の恐怖で泣いている。母は、子の面倒見が良く、地域のお世話的存在。
107	32	3丁目	唐松	カラマツ	12	世帯主・妻・子①・子②・母	両親と連絡が取れない。子①は足が悪く車いすを使用。子②は被災の恐怖で泣いている。母は、子の面倒見が良く、地域のお世話的存在。
108	32	3丁目	唐松	カラマツ	60	世帯主・妻・子①・子②・母	両親と連絡が取れない。子①は足が悪く車いすを使用。子②は被災の恐怖で泣いている。母は、子の面倒見が良く、地域のお世話的存在。
109	☆	イベント1	飯子	イコ	40	世帯主・妻・子①・子②	「体育館を避難所として、開放してくれないか？」
110	☆	イベント2	役場			役場職員(5名)	「避難所運営を手伝います！」
111	☆	イベント3	町外		40代	町に来ていた外国人旅行者	「I can't speak Japanese.」
112	☆	イベント4	町外		50代	町に来ていた営業マン	「今日、帰りたいのだが車が壊れた。なんとか手段は無いのか？(怒)」
113	☆	イベント5	町民		60代		「タバコを吸いたい！その辺で吸っていいか？」
114	☆	イベント6	町民		40代		「トイレの流れが悪い。つまっているのでは…」
115	☆	イベント7	旭丘	アサヒガ 丘	30	世帯主・妻・子①	「家族と合流したいのですが…」
116	☆	イベント8	役場			役場職員	「避難者名簿を作成してください。」
117	☆	イベント9	町民		20		「赤ちゃんのおむつ替えや授乳できる部屋はないですか？」
118	☆	イベント10	役場			役場職員	「パーテーションを持ってきました。どこに置けばいいですか？」～終了～

#REF!

